

デーリー東北
2020年(令和2年)1月9日(木曜日)(13)

多機能集積の「八戸の顔」

三八城連合町内会
(八戸市)

▶加入世帯 1468世帯
▶加入人口 約2900人
▶加入率 44.01%
(2019年12月現在)

町内会探訪

⑩

町おこし 市民集団と協力



長い歴史を持つ糺神社。18年からは同神社を起点に地域を巡る「謎解きイベント」が開かれ、多くの子どもたちが参加する。2019年12月8日

八戸市内丸地域や長根地域をエリアに、市庁や市公会堂などの公共施設や、歴史ある糺神社、三八城神社などを有する「三八城連合町内会」。藩政時代から八戸の顔としてにぎわう中心街と共に、整備を進めている「本八戸駅通り」を中心に、地域の活性化を模索し続けている。

両地域には内丸えんぶり組や、八戸三社大祭の山車組が数多く存在するほか、市立八戸小、第二中といった歴史ある学校が所在。商業地や官公庁に加え、三八城公園下の住宅街も有するなど、多くの機能が集積する地域

※毎週木曜日に掲載
(松橋広幸)

服部正俊会長(70) 防災訓練を毎年行っているが、台地の上に当たる中心街と、三八城公園下の観音下地区では、備えるべき災害が違ふ。市の中心地として、他の連合町内会とタッグを組み、非常時の備蓄品をシェアするなど、連携を深めていきたい。

だ。

2015年に、町おこしを進める市民集団「まちぐみ」のラボが、

十八日町に開設され、17年には同駅通り沿いに移転。地域住民とタッグを組んで、「八戸のうわさ」の吹き出しを通り沿いの店先に貼り付けるといった、ユニークな取り組みを数多く行っている。

また、19年には、八戸工業大の学生が中心となって取り組む「空き家リノベーションプロジェクト」がスタート。同大の「サテライト」として空

き家が活用される見通しで、高齢化が進む地域に若者を呼び込む起爆剤になると期待されている。